

きりゆうちはもの

桐生打刃物



■沿革・特徴

軟鋼にハガネをはりつけ、何度もつちで打ち、鍛え上げながら刃物をつくっていく。これらの高度な技術により製作された打刃物は、手になじみ、使い易く、そのうえ長持ちし、プロの料理人や農作業などで愛用されている。

■主な製品

なた (5,000円～7万円程度)
鎌 (2,000円～1万円程度)
包丁 (3,000円～15万円程度)

■製造者名

小黒 定一

■住所

〒376-0013
桐生市広沢町 2-3124

■問い合わせ先

TEL 0277-54-1903
FAX 0277-54-1903

まんばさんちゅうちはもの

万場山中打刃物



■沿革・特徴

江戸時代に天領で山中(さんちゅう)と呼ばれたこの地域では、古くから盛んであった農林業を支える鎌や鉋が製造され、生活必需品として愛用されてきた。

以前は、何軒もの鍛冶屋があったが今では2軒を残すのみとなっている。しかしながら、全国各地から多くの注文が寄せられ、確かな技術は今もなお受け継がれている。

■主な製品

鎌、鉋、包丁

■製造者名

天野刃物工房、
塩谷 健一郎

■住所

〒370-1504
多野郡神流町大字万場 2 (天野)
〒370-1506
多野郡神流町大字黒田 250-3 (塩谷)

■問い合わせ先

TEL 0274-57-2620 (天野)
FAX 0274-57-2621 (天野)
E-mail a-hamono@kannamachi.jp
URL <http://www.kannamachi.jp/~a-hamono/>
TEL 0274-57-2136 (塩谷)
FAX 0274-57-2136 (塩谷)

あんなかたんぞうのうぐ

安中鍛造農具



■沿革・特徴

安中市では、古くから養蚕が行われており、明治時代から作業に欠かせない道具として、鍛造農具を製造する職人も多く、旧安中市内には、鍛冶名の字名が残っている。

創業当時から変わらぬ製造方法により優れた農具を製造し、伝統を継承している。

■主な製品

てんが、まんのう、唐鍬、草かき

■製造者名

山崎製作所

■住所

〒379-0108
安中市上後閑434

■問い合わせ先

TEL 027-384-0265
FAX 027-384-0165

きりゅうがみ

桐生紙



■沿革・特徴

江戸時代からの伝統を有する手漉和紙作りは、桐生川上流、梅田の地に運綿と継承されてきた。桐生織物産地の隆盛に支えられ大福帳として大量に生産されていた桐生紙は、生活様式の変化等に伴いその生産量は減少したが、自然の香りと独特の風合いは、現在でも愛好者が多く、様々な製品に使用されている。

■主な製品

水墨画紙、木版画紙、染紙、漉込紙はがき等小物

■製造者名

星野 増太郎、橘 三紀

■住所

〒376-0601
桐生市梅田町5-7348

■問い合わせ先

TEL 0277-32-0201
FAX 0277-32-0201

ぐんまのこけし



■沿革・特徴

明治の終わりごろ、東京でロクロ技術を修得した関口専司翁は前橋市総社町に木製玩具の工場を開業し、ロクロ技術を多くの人々に広めた。大正、昭和と伝承されたロクロ技術を受け継いだ人たちが、その技術を応用しつつ形状や絵付け手法においてすべて自由な発想を用いた群馬独自のこけしを創造する。その姿は可憐で、木肌の美しさや木のぬくもりは安らぎを与えてくれる。

■主な製品

こけし (500円～50万円程度)

■製造者名

群馬県こけし協同組合

■住所

〒370-3501
北群馬郡榛東村長岡 1591

■問い合わせ先

TEL 0279-54-6766
FAX 0279-54-8684

たかさき

高崎だるま



■沿革・特徴

江戸時代後期、寛政年間に山縣友五郎が豊岡村で達磨の木型に紙を張り、作り始めたのが、高崎だるまの始まりである。当初は座禅像に近かったが、多くの養蚕農家で蚕の起きと達磨の起き上がりとのゴロ合いから神棚に祀られるようになったので次第に丸くなり現在の型となった。大きな特徴として、眉が鶴、髭が亀、更に肩に商売繁昌、家内安全等縁起の良い文字が書きこまれており、他の産地では見られない。

■主な製品

だるま (500円～3万円程度)

■製造者名

群馬県達磨製造協同組合

■住所

〒370-0875
高崎市藤塚町 124-2

■問い合わせ先

TEL 027-323-5223
FAX 027-326-4100
URL <http://www.takasakidaruma.net/>